

1日目 11月18日(金)

◆開会式(9:00~9:30)

◆【会議場A1】(メイン会場)

◇特別講演①「戦後沖縄の心象風景ー沖縄戦の死者をめぐる記憶」(9:40~11:30)

座長 中山 勲 (沖縄 玉木病院 医師)

講師 北村 毅 (東京 早稲田大学 琉球・沖縄研究所 客員准教授)

本講演では、20万人以上の死者を数えた沖縄戦のその後において、生存者や遺族が、どのように生き、いかに戦死者と向き合ってきたのか、死の記憶は彼らの生にいかなる影響を与えてきたのかについて、文化人類学的視点から考える。

◇濱田賞授賞式(11:30~12:00)

◇ランチタイムセッション(12:00~12:50)

「当事者研究が開く世界、当事者の棲む場からの出発」

座長 新垣 元 (沖縄 新垣病院 医師)

講師 向谷地 生良 (北海道 北海道医療大学 教授)

当事者研究は、統合失調症などを持つ当事者自身が、研究者の立場から「研究テーマ」を持ち、自らの経験に独自の世界に光を照らす。

そして、自らの病の体験を経験へと昇華させ、当事者自身を生かす、新しい知恵と「自分を助ける技」を生み出す源泉となっている。

今回は、当事者研究が生まれた背景と現状、そして、新たな可能性についての最新の情報を提供する。

◇一般演題 1【自殺・震災関連】(13:00～14:00)

座長 村上 優 (沖縄 国立病院機構琉球病院 医師)

座長 吉住 昭 (岩手 国立病院機構花巻病院 医師)

- ・「自殺企図患者への積極的な看護介入を目指して  
～患者理解とアセスメントシート作成を通して～」  
久田 愛 (沖縄 北部地区医師会病院 看護師)
- ・「救命救急センターでの自殺企図予防の取り組み～地域との連携の必要性～」  
和田 照平 (大阪 近畿大学医学部 PSW)
- ・「求職者における東日本大震災の影響～求職者メールによるこころの健康相談から～」  
佐藤 恵美 (東京 神田東クリニック PSW)
- ・「東日本大震災における当院の状況とグループホームへの対応」  
川村 雅之 (福島 舞子浜病院 臨床心理士)

◇理事会企画シンポジウム①「東日本大震災と精神医療」(14:10～16:40)

座長 村上 優 (沖縄 国立病院機構琉球病院 医師)

座長 白澤 英勝 (宮城 東北会病院 医師 学会理事長)

シンポジスト

岩手の全体的な状況と課題

吉住 昭 (岩手 国立病院機構花巻病院 医師)

宮城の全体的な状況と課題

松本 和紀 (宮城 東北大学 医師)

震災に会った病院のその後の問題点

高橋 玄 (宮城 こだまホスピタル 医師)

東日本大震災における当院の状況と復興過程

本田 教一 (福島 舞子浜病院 医師)

南三陸の現状と課題

工藤 初恵 (宮城 南三陸町役場 保健師)

◆【会議場A2】

◇一般演題2【アウトリーチ①】(9:40～10:40)

座長 小林 敬 (沖縄 田崎病院 医師)

座長 岩尾 俊一郎 (兵庫 県立光風病院 医師)

- ・「重い精神障がいをもつ人に対するアウトリーチサービスを併せ持つ  
デイケア・地域活動支援センターの効果的援助要素の検討」  
添田 雅宏 (東京 日本社会事業大学 専任教員)
- ・「診療所における危機介入～危機を乗り切るためのアウトリーチ～」  
関 晋太郎 (大阪 三家クリニック OT)
- ・「施設閉鎖に伴う退居支援で見てきたこと～本人主体の支援を考える～」  
比嘉 由美子 (沖縄 新垣病院 PSW)
- ・「assertive community treatment・訪問看護の支援経過におけるケア内容の変化」  
吉田 光爾 (東京 国立精神・神経医療研究センター 援助技術研究室長)

◇一般演題3【アウトリーチ②】(10:50～11:35)

座長 熊谷 晋 (沖縄 地域活動支援センターたんぼぼ PSW)

座長 白石 弘巳 (埼玉 東洋大学ライフデザイン学部 医師)

- ・「急性期を自宅で支える支援～安心できる人と場所～」  
安里 順子 (京都 ACT-K ねこのて訪問看護ステーション 看護師)
- ・「石垣島の地域生活支援～二人で暮らす統合失調症の兄妹を通して～」  
大塚 郁夫 (沖縄 沖縄県立八重山病院 医師)
- ・「地域生活支援センターにおけるアウトリーチの実践報告」  
龍輪 恵美 (東京 地域生活支援センターお伊勢の森 PSW)

◇一般演題 4【退院促進①】(13:00～14:00)

座長 比嘉 智子 (沖縄 地域生活支援センターあいあい PSW)

座長 金杉 和夫 (東京 金杉クリニック 医師)

- ・「町へ帰ろう！～地域移行推進員との二人三脚～」  
安成 和晃 (京都 岩倉病院 医師)
- ・「退院支援～単身者の自宅への退院支援から学んだ事～」  
大浜 実子 (沖縄 新垣病院 看護師)
- ・「退院意欲向上を目指して～精神科病院との協働した取り組み～」  
川上 真紀 (岡山 岡山市こころの健康センター PSW)
- ・「長期在院精神障害者の退院・地域移行にかかわる意識  
～市内精神科病院を対象とする地域自立支援協議会のアンケート調査より～」  
古屋 龍太 (東京 日本社会事業大学大学院 准教授)

◇一般演題 5【退院促進②】(14:10～15:10)

座長 比嘉 和枝 (沖縄 平和病院 看護師)

座長 大塚 淳子 (東京 日本精神保健福祉士協会 PSW)

- ・「社会復帰病棟における香りの嗜好性～退院促進支援とアロマテラピー～」  
岩原 千絵 (東京 成増厚生病院 医師)
- ・「長期入院患者の退院促進に向けた LOCUS 評価活用の現状と課題」  
伊藝 晋 (沖縄 国立病院機構琉球病院 看護師)
- ・「長期入院統合失調症患者の退院にむけたケア 1～支援開始・継続に向けた検討～」  
田上 美千佳 (東京 東京都医学総合研究所 看護師/保健師)
- ・「長期入院統合失調症患者の退院にむけたケア 2  
～退院を促進し再入院を防止する援助とは～」  
山村 礎 (東京 首都大学東京 看護師/心理)

◇一般演題 6【退院促進③】（15:20～16:50）

座長 久場 禎三（沖縄 沖縄中央病院 医師）  
座長 香山 明美（宮城 県立精神医療センター OT）

- ・「認知症治療病棟における現状と課題」  
中村 聡（沖縄 新垣病院 看護師）
- ・「療養病棟における退院促進の現状と課題」  
與儀 一志（沖縄 新垣病院 看護師）
- ・「退院促進を図る長期入院者への情報提供方略の試行  
～居住地別特性で捉える長期入院者の状況とその課題～」  
高島 眞澄（茨城 茨城県精神障害地域ケア研究会 PSW）
- ・「山梨県立北病院の退院促進の取り組みにおける長期入院患者の5年後転帰」  
小林 信二（山梨 山梨県立北病院 看護師）
- ・「山梨県立北病院における退院困難患者の特徴」  
相川 千寿子（山梨 山梨県立北病院 看護師）
- ・「山梨県立北病院における退院困難患者の問題行動」  
藤原 友子（山梨 山梨県立北病院 看護師）

◇市民公開講座「震災と沖縄」～私たちはこんな風に参加した～（17:00～18:30）

座長 小林 敬（沖縄 田崎病院 医師）

演者 池田 太一郎（沖縄 国立病院機構琉球病院 医師）  
伊藤 義徳（沖縄 琉球大学 臨床心理士）  
照屋 初枝（沖縄 国立病院機構琉球病院 看護師）  
西依 康（沖縄 精和病院 医師）  
野村 れいか（沖縄 国立病院機構琉球病院 臨床心理士）  
道下 あかね（沖縄 新垣病院 PSW）  
山崎 千鶴子（沖縄 平安病院 看護師）

◆【会議場B1】

◇シンポジウム①「当事者の視点」～安心して病むことのできる社会～（10:00～11:50）

座長 兼浜 克弥（沖縄 地域活動支援センターなんくる PSW）

座長 田中 悟郎（長崎 長崎大学 OT）

シゴスト 加藤 真規子（東京 精神障害者ピアサポートセンターこらーるたいとう 代表）

野中 猛（東京 日本福祉大学 医師）

宮里 芳哉（沖縄 那覇ピアサポートネットワーク 当事者）

儀間 光徳（沖縄 NPO 法人ふれあいセンター 当事者）

心を病まないようにするためにはどうあるべきか？精神的によりよく生きるコツの視点として、予防の部分にエネルギーを注ぐことは重要であるが、ガン撲滅運動のように心の病を撲滅するような運動は、果たしてよりよく生きる社会を構築できるのか？私たちのこれまでの人生を振り返ると、失敗した経験から獲得したスキルがたくさんあることに気づく。これまで獲得してきたスキルと同様に、心の病を経験する（心が折れてしまう）という体験から、これからの人生をよりよく生きる貴重なスキルを獲得することができるのではないだろうか。心を病むことは誰もがなりえることであり、成長するチャンスである。そんな考えが当たり前ができる社会（安心して病むことができる社会）にするためには？私たち（当事者・支援者）に求められるものは何か？安心して病める社会の否定的な面からの発言と肯定的な面からの発言。また、精神障害者をとりまく社会制度の現状や今後の展望についての発言。精神障害者の就労支援の新たなスタイルとして社会的事業所の方からの発言を考えています。

◇特別講演②（13:00～14:30）

「うつ病デイケアにおける集団認知行動療法と作業療法を併用した技法の有効性」

座 長 大田 裕一（沖縄 平安病院 医師）

講 師 仲本 晴男（沖縄 沖縄県立総合精神保健福祉センター 医師）

急性期を脱したうつ病においては、対処法の修正が必要であり、また低下した自律神経機能の回復のため心身の活性化が必要である。前者の技法が集団による認知行動療法（CBT）であり、後者の技法が作業療法である。当センターではそれを併用したうつ病デイケアを2005年8月から開始して6年が経過し県内外に普及しているが、その技法と有効性について報告する。

◇一般演題 7【当事者活動】（14:40～15:55）

座 長 久保田 誠（沖縄 福の木診療所 施設長）

座 長 川口 夏生（和歌山 県立こころの医療センター OT）

- ・「1980年から1987年の精神障害当事者の運動史」  
桐原 尚之（東京 全国「精神病」者集団 当事者）
- ・「人との繋がりを大切にした地域移行②～リハビリ志向のグループ活動について～」  
八田 智美（岡山 岡山県精神科医療センター PSW）
- ・「人との繋がりを大切にした地域移行①～ピアスタッフとの地域病院交流会について～」  
小倉 未希（岡山 岡山県精神科医療センター OT）
- ・「地域生活支援センターにおけるピア電話相談活動  
～ピアって難しい、でもすごい！振り返りを通じて～」  
宮本 めぐみ（東京 社会福祉法人メグハウス 看護師）
- ・「当事者主体によるピアサポートの推進と発展課題～セルフヘルプ活動とWRAP～」  
山口 弘幸（長崎 長崎ウエスレヤン大学 PSW）

◇一般演題 8【発達】(16:05～16:35)

座長 野村 れいか (沖縄 国立病院機構琉球病院 臨床心理士)

座長 川上 保之 (埼玉 かわかみ心療クリニック 医師)

- ・「集団と個別の併用により、退院後の生活の見通しを持つことができた  
広汎性発達障害者への作業療法」

片芝 智絵 (岡山 岡山県精神科医療センター OT)

- ・「乳幼児を養育中の母子関係におけるストレス状況と解消法

～こどもの虐待を予防するために～

後藤 恵 (東京 成増厚生病院 医師)

◆【会議場B 2】

◇交流コーナー① (9:40～10:40)

- ・「我が国の精神科医療における隔離・身体拘束に関する医療従事者の意識の実態  
～最小化に向けて専門職は何をすべきか～」

長谷川 利夫 (東京 杏林大学 教授)

◇交流コーナー② (10:50～11:50)

- ・「ひろげよう、入院中の精神障害者の権利擁護活動」

有我 讓慶 (京都 全国精神医療労働組合協議会 副代表)

山本 深雪 (大阪 NPO 大阪精神医療人権センター 事務局長)

◇交流コーナー③ (13:00～14:00)

- ・「めんそーれ 沖縄WRAP (元気回復行動プラン)」

～南の島でつながる元気～

坂本 将吏 (沖縄 ワークセンターほほ笑み ファシリテーター)



◇交流コーナー④（14:10～15:10）

- ・「いま、ACT を語ろう」

宮川 真一 （沖縄 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 医師）

◇交流コーナー⑤（15:20～16:20）

- ・「離島精神医療サミット」

宮川 真一 （沖縄 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 医師）

◇夜間交流集会（18:40～20:30）

- ・「精神医療・福祉の現状を問う Part 9」

伊藤 整一 （愛知 桜桂会希楽里 PSW）

◆【会議場B 3】

◇精神科薬物療法セミナー「精神科薬物療法と就労支援」（10:00～12:00）

座 長 吉尾 隆 （千葉 東邦大学 薬剤師）

演 者 中谷 真樹 （山梨 住吉病院 医師）

◇ワークショップ「薬剤師から見た困った症例」－薬剤師のかかわり方－（13:00～15:00）

司 会 吉尾 隆 （千葉 東邦大学 薬剤師）

司 会 中谷 真樹 （山梨 住吉病院 医師）

演 者 沖縄から3名の薬剤師の方の参加を予定しています。

◇一般演題 9【薬物療法】(15:20～16:20)

座長 安里 尚彦 (沖縄 平安病院 医師)

座長 中谷 真樹 (山梨 住吉病院 医師)

- ・「怠薬傾向で再熱を繰り返す患者の処方変更を機にチームで本人及び  
家族への支援を行い、服薬アドヒアランスが改善し社会性が回復した一例」  
木内 健雄 (静岡 三方原病院 薬剤師)
- ・「デイケア利用者の服薬状況に関する調査」  
奥村 英雄 (愛知 犬山病院 心理士)
- ・「ACTにおける薬剤師の役割について」  
三宅 友佳 (京都 たかぎクリニック 薬剤師)
- ・「リスペリドン持抗性注射剤中止例」  
石田 保美 (福岡 福岡病院 薬剤師)

◆【会議場B5】

◇シンポジウム②(10:00～11:50)

「一般医療の中の精神医療の役割」～心身の障がいをもつ人を地域で支える～

座長 宮川 真一 (沖縄 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 医師)

座長 澤 温 (大阪 さわ病院 医師)

シンポジスト 荘司 清 (沖縄 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 医師)

宮里 勝子 (沖縄 オリブ山病院 相談員)

福田 貴博 (沖縄 国立病院機構琉球病院 医師)

田名 彩子 (沖縄 首里城下町クリニック 保健師)

精神病床入院患者の14%が身体合併症を有しており、救命救急センターに入院した患者のうち、18.5%が精神・身体ともに入院が必要であったとの報告がある。しかし、病院・地域で安心して過ごすための身体合併症医療体制の整備は遅れており、たらい回しで死亡する例も報道されている。精神と身体との二つの障害を持った人を病院・地域で支えるために、どのような取り組みが必要なのか、特に精神医療の外(第三者的視点)からの報告をいただいて議論を深めたい。

◇一般演題 10【アルコール関連問題】（13:00～14:00）

座長 赤嶺 良一（沖縄 糸満晴明病院 看護師）

座長 斉藤 雅（福岡 八幡厚生病院 医師）

- ・「アルコール依存症者の飲酒による記憶喪失（ブラックアウト）に関する調査」  
岩倉 信之（東京 慈友クリニック 臨床心理士）
- ・「アルコール依存症看護における家族介入の重要性～手紙療法の試みを通じて～」  
堀口 奈緒美（京都 岩倉病院 看護師）
- ・「CAVI（Cardio Ankle Vascular Index）を用いた  
アルコール依存症者における動脈硬化症の検討」  
鈴木 良平（東京 成増厚生病院 看護師）
- ・「高齢者アルコール依存症者に対する非言語的ARPの有効性について  
～あたりまえの生活を取り戻すために～」  
中村 有沙（東京 新大塚榎本クリニック PSW）

◇一般演題 11【精神科急性期医療】（14:10～15:10）

座長 宮城 聡（沖縄 新垣病院 臨床心理士）

座長 今岡 雅史（島根 松江市立病院 医師）

- ・「急性期治療病棟における『あるある会』（集団精神療法）の試み」  
武田 慎太郎（京都 岩倉病院 看護師）
- ・「急性期病棟における高齢者・認知症の方へのソーシャルワーク」  
橋本 育子（東京 多摩あおば病院 PSW）
- ・「精神科救急・急性期病棟入院患者の入院後3ヶ月以内の転帰を予測する要因の検討」  
佐藤 さやか（東京 国立精神・神経センター社会復帰研究部 心理士）
- ・「急性期ケアマネジメントモデル導入前後におけるスタッフの変化  
～日本の精神科救急13病棟における介入研究から～」  
高原 優美子（東京 国立精神・神経医療研究センター 研究員）

◇一般演題 12【地域生活支援センター】(15:20～16:35)

座 長 安村 勤 (沖縄 地域活動支援センターウェーブ PSW)

座 長 三橋 良子 (神奈川 百合丘地域生活支援センターゆりあす PSW)

- ・「障害者自立支援法以後の「東京」における地域格差  
～3回にわたる地域生活支援センター実態調査より～(第1報)」  
中居 克 (東京 プレス中目黒地域生活支援センターせせらぎ PSW)
- ・「障害者自立支援法以後の「東京」における地域格差  
～3回にわたる地域生活支援センター実態調査より～(第2報)」  
志村 敬親 (東京 プレス中目黒地域生活支援センターせせらぎ PSW)
- ・「調布市自立支援協議会における地域生活支援センター希望ヶ丘の活動実践報告」  
中林 俊二 (東京 地域生活支援センター希望ヶ丘 相談支援専門員)
- ・「障害者の地域生活支援を考える～サポートやはたの実践から～」  
甲斐 由美 (福岡 八幡厚生病院 PSW)
- ・「地域生活支援における「交流の場」に関する一考察」  
古賀 香代子 (熊本 国立病院機構菊池病院 臨床心理士)

◇総会 (17:20～18:30)

2日目 11月19日(土)

◆【会議場A1】(メイン会場)

◇会長講演「出会い、支えあい、結びあう」～ゆいまーるの島から～(9:00～9:45)

司会 稲田 隆司 (沖縄 かいクリニック 医師)  
講師 知念 襄二 (沖縄 福の木診療所 医師)

◇シンポジウム③「沖縄戦と精神保健」(9:55～12:30)

座長 名嘉 幸一 (沖縄 琉球大学 名誉教授)  
座長 知念 襄二 (沖縄 福の木診療所 医師)

シゴジスト 蟻塚 亮二 (沖縄 沖縄協同病院 医師)  
当山 富士子 (沖縄 沖縄県立看護大学 教授)  
山城 紀子 (沖縄 フリーライター)  
上原 立人 (東京 タカハシクリニック PSW)

66年前、沖縄においては日本国土内で唯一の地上戦が展開された。3ヶ月以上にも及ぶ長期の地上戦は、自然環境・社会環境までもことごとく破壊し、20万人余の戦没者を生んだ。半世紀を当に超えた現在、沖縄戦はどのような精神保健の問題を醸し出しているのだろうか？最近高齢者の不眠、不安等の訴えの背景に「沖縄戦とPTSD」を指摘する報告がなされている。沖縄戦と精神保健、医療を広く問い直す発端に思える。

◇理事会企画 特別講演「障害者制度改革と長期入院患者の地域移行」（13:30～15:00）

企 画：障害者自立支援法対策委員会

司 会 関口 明彦（学会理事 障害者制度改革推進会議委員）

講 師 三田 優子（大阪府立大学 障害者制度改革推進会議総合福祉部会委員）

当学会障害者自立支援法対策委員会では、この間毎年の大会で、障害者自立支援法を批判的に検討するシンポジウムを企画、実施してきた。

昨 2010 年は、自立支援法違憲訴訟原告団と国の和解、多くの当事者を含む障がい者制度改革推進会議の発足、検討作業の開始など大きな転換点となる年であった。そこで 11 月の東京大会では、同推進会議、その下部組織である総合福祉部会、また「こころの健康政策構想会議」等のメンバーになっている当学会の会員全員に声をかけ、8 人の方の参加を得て、「日本の精神保健医療福祉改革をどう進めるか」というテーマでシンポジウムを行った。（学会誌 53 巻 3 号、通巻 181 号掲載）

しかし、その後国会に提出された障害者基本法は、推進会議の報告書にあった「精神障害者の社会的入院の解消と地域移行の推進」「精神科病院入院患者への適正手続きの保障」という理念を盛り込まず、精神障害者については何ら改正点のない内容に終わってしまった。今後の総合福祉法では何とかしなければという、当事者、関係者の思いは強まる一方である。

そこで、今年の沖縄大会では、推進会議総合福祉部会の委員として、精神障害者の地域移行問題のとりまとめをされている三田優子さんに特別講演をお願いすることにした。三田さんは、大阪精神障害者連絡会（ぼちぼちクラブ）が、自立支援法施行前に、法の障害程度区分認定に疑問を持ち、「生活のしづらさを当事者がどうとらえているか、どんな支援を求めているかを明らかにする」ために行った 1000 人アンケート報告書（2007 年 3 月）のまとめに中心的に協力された人である。地域に暮らす当事者のニーズを踏まえ、長期入院者が地域に出てこられる施策とは？ 部会の検討過程、阻むものなどを率直に語っていただきたい。できれば推進会議委員でもある、司会関口理事との意見交換も聞きたい。そして、私達の議論、行動を進める糧としたいと考える。

◆閉会式（15:15～）

◆【会議場A2】

◇一般演題 13【精神科専門医療】(9:00～9:45)

座長 渡嘉敷 史郎 (沖縄 新垣病院 医師)

座長 川副 泰成 (神奈川 神奈川県立精神医療センターせりがや病院 医師)

- ・「多飲症患者の飲水コントロールを目指して」  
神山 広美 (栃木 鹿沼病院 看護師)
- ・「オーラルヒストリーを用いた刈谷病院作業療法史の一考察」  
毛利 将平 (愛知 刈谷病院 OT)
- ・「m-ETC を受ける患者の看護  
～看護師へのアンケート調査から見てきた看護の姿勢と課題～」  
高良 朋子 (沖縄 国立病院機構琉球病院 看護師)

◇一般演題 14【訪問看護】(9:55～10:55)

座長 知花 菊治 (沖縄 オリブ山病院 看護師)

座長 井上 英治 (大阪 さわ病院 OT)

- ・「精神科デイケア・クリニック・訪問看護ステーションとの連携によりみえてくる支援の課題」  
齋藤 杏子 (神奈川 あいクリニック PSW)
- ・「地域生活を支える作業療法士の実践」  
～訪問看護に関わる作業療法士の支援から見えた事～  
儀間 昇之 (沖縄 新垣病院 OT)
- ・「訪問看護と病棟・多職種との連携～合同カンファレンスを通して～」  
宇江城 京子 (沖縄 国立病院機構琉球病院 看護師)
- ・「訪問看護24時間対応電話で構築された利用者との関係性」  
糟谷 貴司 (福岡 八幡厚生病院 看護師)

◇一般演題 15【精神科看護】(11:05～12:05)

座長 鈴木 啓子 (沖縄 名桜大学 教授)

座長 田上 美千佳 (東京 (財)東京都医学総合研究所 看護師)

- ・「沖縄県北部地区の住民が抱く統合失調症に対する偏見の実態調査」  
～普及啓発を担う看護専門職育成における課題～  
伊礼 優 (沖縄 名桜大学 講師)
- ・「視点を変えると心がぐんと楽になる」  
～問題解決型看護計画から患者参加型ケアプランへ～  
古沢 真由美 (佐賀 いぬお病院 看護師)
- ・「精神科におけるクリニカルパスとコンピューターによる看護管理システムによるアウトカムの管理」  
千葉 進一 (徳島 徳島大学ヘルスハイテクノロジー研究部 助教)
- ・自己完結しない看護を目指して  
藤原 昌幸 (岡山 まきび病院 看護師)

◆【会議場B1】

◇一般演題 16【医療観察法関連】(9:00～10:15)

座長 伊波 久光 (沖縄 沖縄県立精和病院 医師)

座長 山岡 信明 (広島 小泉病院 医師)

- ・「医療観察法における対象者を主体としたクライシスプランの作成」  
大鶴 卓 (沖縄 国立病院機構琉球病院 医師)
- ・「入院者の他害事件の経験から」  
岩尾 俊一郎 (兵庫 兵庫県立光風病院 医師)
- ・「医療観察法入院者におけるクロザピン使用状況と看護」  
塚原 幸博 (沖縄 国立病院機構琉球病院 看護師)
- ・「地域生活を想定した包括的生活技能訓練の取り組み」  
穂田 祥子 (沖縄 国立病院機構琉球病院 OT)
- ・「医療観察法通院処遇中に就労に繋がった A 氏の経過報告」  
知花 浩也 (沖縄 国立病院機構琉球病院 PSW)



◇理事会企画シンポジウム②「事例を通して医療観察法を検証する」(10:30~12:00)

座 長 大鶴 卓 (沖縄 国立病院機構琉球病院 医師)

座 長 中川 実 (愛知 こころのクリニック西尾 医師)

演 者 親泊 希佐子 (沖縄 国立病院機構琉球病院 看護師)

①

②

昨年11月、厚生労働省と法務省は「医療観察法施行の状況に関する報告」を閣議に報告した。この報告は、統計数字の羅列に終始し、医療観察法運用の実態を明らかにするものとは言いがたいものであった。特に、運用上の問題点が隠蔽されているとしか思えないものであった。

本学会も各年度の総会において理事会企画シンポを行い、また指定入院医療機関の調査を行い、少しでもこの医療観察法運用の実態に迫る努力を重ねてきた。しかしながら、この目的は半ばしか達成されず、一般の精神科医療・保健・福祉従事者に運用の実態が明らかになったとはやはり言えない。具体的な事例を通しての討論がなされなかったことにもその原因の一端があろう。今回のシンポジウムでは、シンポジストに事例を呈示していただくことにより、いわば臨床の視点から医療観察法の運用実態迫ることができらるであろう。

◇シンポジウム④「家族の視点」～保護者制度の何が問題か？～（13:30～15:00）

座長 高橋 年男 （沖縄 沖縄県精神障害者福祉会 事務局長）

座長 新垣 元 （沖縄 新垣病院 医師）

シゴジスト 池原 毅和 （東京 東京アドヴォカシー法律事務所 弁護士）

川崎 洋子 （東京 公益社団法人全国精神保健福祉会 理事長）

本後 健 （東京 厚生労働省障害保健福祉部精神・障害保健課 課長補佐）

伊礼 優 （沖縄 名桜大学 講師）

2006年に国連で採択された障がい者権利条約は、「障がいとは何か」について「医学モデル」から「社会モデル」へとパラダイムシフトしたといえる。障がい者のいない社会は、世界中どこにもない。むしろ、「障がいをもった人がいる社会がどの時代においてもあたりまえ」というところから、障がいがあるかないかは人間のひとつのあり方といってもよく、社会の構成員として、一緒に働き、一緒に幸せな生活ができるように、障がいのある人に配慮する社会をつくるのが「社会モデル」である。ところで、保護者制度は明治時代の監護義務者という制度から100年以上続く制度であり、親は高齢になっても一生保護者をやれというシステムである。治療を受けさせる義務を怠るなど責任を課しているため、本人を家族（保護者）の監視の下に閉じ込める傾向を帯びざるをえない、社会参加を抑制する制度である。また、家族だけで解決しなさいとする保護者制度は権利条約に逆行する。権利条約は「障がいのある人及びその家族の構成員が障がいのある人の完全かつ平等な享有に家族が貢献することを可能とするために必要な保護及び援助を受けるべきである」と、家族支援の必要性を述べている。家族もともに支援を受けることによって広い視野と経験から、本人も自分の人生の幸せをつかむ「自己決定」のチャンスを拡大できる。このセッションでは、権利条約、家族支援の視点から、保護者制度の問題点を浮き彫りにする。

◆【会議場B 2】

◇交流コーナー⑥（9:30～10:30）

- ・「就職活動のレジリエンス」

中原 さとみ（東京 リカバリーキャラバン隊・桜ヶ丘記念病院 PSW）

◇交流コーナー⑦（10:40～11:40）

- ・「ピアサポート交流」

田中 みどり（東京 日本カナダ国際精神保健交流協議会 保健師）

◆【会議場B 5】

◇一般演題 17【その他】（9:00～10:00）

座長 外間 宏人（沖縄 琉球大学 医師）

座長 大賀 達雄（東京 カウンセリングルーム赤羽 心理士）

- ・「大学生における精神障害のとらえ方～知識の習得と参加型学習実践の効果～」

木浪 富美子（兵庫 関西福祉大学 准教授）

- ・「PSW は自らの実践をどのように報告してきたのか

第2報～「病院・地域精神医学」誌における PSW 発表の分析～」

福富 律（東京 立教大学大学院 PSW）

- ・「難民支援における精神保健医療福祉の課題」

三木 良子（東京 東洋大学ライフデザイン学部 PSW）

- ・「扉よひらけ⑥」～大阪精神科病院事情ありのまま～」

山本 深雪（大阪 NPO 大阪精神医療人権センター 事務局長）

◇一般演題 18【就労支援】(10:10～10:55)

座長 神谷 牧人 (沖縄 ソーシャルサポートアソシア 施設長)

座長 比留間 ちづ子 (東京 ジョイント若年認知症社会参加支援センター OT)

- ・「不安障害と就労をめぐる諸問題～不安障害の精神疾患としての特性から考察～」  
上野 豪志 (埼玉 堀ノ内クリニック 医師)
- ・「リワークプログラムにおけるアロママッサージ導入の効果について」  
石井 睦子 (神奈川 あいクリニック 臨床心理士)
- ・「家からの第一歩～地域生活支援センターにおける外来ニートの方への取り組み～」  
雑賀 朗子 (大阪 高槻地域生活支援センター PSW)

◇一般演題 19【デイケア・地域リハビリテーション】(11:05～12:20)

座長 東江 悟 (沖縄 天久台病院 OT)

座長 古屋 龍太 (東京 日本社会事業大学大学院 PSW)

- ・「生活改善プログラムを用いた健康への意識変容」  
宮本 靖子 (和歌山 国保野上厚生総合病院 臨床心理士)
- ・「精神科デイケア利用者における主観的ウェルビーイング評価尺度の下位項目の検討」  
山田 大豪 (兵庫 兵庫医療大学 教授)
- ・「たまこヒルズの日中のプログラム利用者による評価について」  
吉ヶ江 聖子 (東京 援護寮たまこヒルズ PSW)
- ・「主体性の回復～地域活動支援センターとの交流を通じて～」  
知花 勉 (沖縄 新垣病院デイケア・ナイトケアセンター PSW)
- ・「精神科リハビリテーションにおけるスポーツ活動の有効性の検討  
～生理的ストレス指標活用の試み～」  
中村 恭子 (千葉 順天堂大学スポーツ健康科学部 ダンス運動学教員)